

くれから正月の遊

及川ふみ

この見出しの「くれからお正月」と云ひますと、その意味からも二様に考へられますが、小さい人たちはくれからお正月が来た様でそのうれしかつた事、たのしかつた事、今思ひ出してもなつかしいものであります。

五十日も六十日も前から「もういくつねるとお正月」と楽しみに數へたり、お母さんやお姉さんたちからお正月はもう何町まで来た、今日は何町まで来たと教へられて毎日毎日まちあぐんだ事は今尙はつきりとしたうれい事でありました。

こんなうれしい記憶からしても幼児たちにもくれからお正月にかけてはことさらにいろいろの遊びを考へて充分に遊ばせたいものであります。

紙風船つき

紙風船は何の危険もなくふくらませる面白さ、つく面白さ、價も安くてこわれても時々容易にととのへる事が出来てよいものです。

羽子つき

羽子つきは大きい組の幼児たちの中になかく上手にくものがありますが年少の組の人たちも二つ三つとだんだんに數多くつける様になります。

羽子板は桐のもので最低三錢位からありますが少し肉あつで一枚板のが八錢でとのへられました。大きさ程よくて幼児たちは大喜びでその畫をかきました。

黒の鉛筆で輪廓だけかゝせて裏に片假名でめい／＼の名をかゝせました。これを下繪として焼繪としました。焼繪の道具は十圓あまりで電熱で出来るもので大層簡單に使用

する事が出来ます。

きのふ自分が鉛筆だけで書いておいたものが今日は焼繪となつて黒板の上に飾られてゐるのを見てにつこりとして「これ僕の」「これ私の」とたしかめてきます。

焼繪になつたものを一人一人に繪具をぬらせます。この繪具は水繪具では色が充分に出ませんからポスターカラーかテンペラ繪具がよいと思ひます。

今年十一月の初め頃からお帖面に羽子板の形をとつてその中に畫をかく事を二三度してから本ものに畫かせましたので年少の組でも割合に上手にかけました。

お正月までは今までの羽子板で遊んで新しいのは暮のお土産にして、春からめい／＼の羽子板でつく事に致します。

カルタ遊び

年少の幼児でも繪でとれますからとり札を二組位ならべてすると場面が廣くなつて大勢で出来ます。お茶の水では數年前幼児の作つたコードモカルタがありますからそれをい

つもつかつておりますがめいめいの幼稚園でも幼児がつくると面白いと思ひます。ことばをつくつたり繪をかいたりなか／＼大仕事であります。その園その園にびつたりと合つたものがつくられる事でせう。

カルタをしてゐるうちにどん／＼片假名を覚えてゆくの、も一つの收獲でありませう。

福わらひ

畫用紙四つ切位の大きさに顔の輪廓を幼児にかゝせます。別に眉、眼、鼻、口、耳などをかゝせてきりぬかせておきます。

眼かくしをして眼とか口とか云ひながら手わたししてなべて見ます。

又顔、胴、手、足などと大きな部分をこしらへておいて前の福わらひと同様に眼かくしをしてだん／＼に組みたてるのもよいと思ひます。

すごろく

桃太郎さんや金太郎さんの一代記でも、めいめいの一日でも、のりものづくしでも皆でその一部分を分擔してかいたのを集めて一つのすぐろくとして大きな臺紙にはりつけて遊ぶとよいと思ひます。やすみだの、ぎやくもどりなどの複雑なことはさけて幼児たちだけでも出来る様にしたいいものです。

圓 球 板

やかましい規則などなくして簡単な遊びとして用ひると幼児でも容易に使ふ事が出来ます。

だるまおとし

積木などの上にだるまさんをのせておいてまりでつきおとすなどもお部屋の遊びとして運動になつてよいものがあります。

しりとりにあそび

風が強くして寒い日などお部屋の中で靜かに遊ぶのによ

と思ひます。はじめに先生がよくわかる様に説明をしておいて誰かに花の名でも動物の名でも云はせて黒板にかいておく。たとへば「ラクダ」と一人がいふと今度は「ダ」のつくものは「ダテウ」「ウ」のつくものは「ウサギ」とだんぐにあとへつけてゆきます。

風 あ げ

風は臂のつけ方がむづかしくてよほど上手に出来てゐないとなか／＼あがらないものですし價も安くかへますから出来たのを使ふのがよいと思ひます。

十月號訂正

頁	段	行	誤	正
一七	上	五	業	象
一八	下	一二	做ハシム	做ハシメム
一九	下	一	せんか、	せんか。
二〇	上	一六	憶	培
二一	下	一二	心のどこか	心のどこか
			あるへく。	あるへく、